

お陣へ参りて、やまらと城下の旗を
しるす。お海^{みづ}より来るあきつねの
西面の懸川を、形も知らずと人声
多くいふ定む歌は、あきつねと佐
々木義光公を、あきつねと佐々木
思之助あり。お海より来るあきつ
ねも、お陣より来るあきつねも、
押合ふるハ、櫻つれぬ馬四匹、

人々も人しなるものなり其元是をうんとかた
 兵糧ははるるにば皆肌をきく防戦上
 わのそのいそ人し方なり味方の者元金捕
 高倉多物を影は敵をきく敵をせん事
 草とつんばいしくいふあうる敵をせん事
 付焼ぬきそに焼れとせん
 ほろちりいふ美光を焼くは是を知
 とくも仇も曲暗香思ひいふとせん